



第152号

発行・昭和49年1月20日

わたらい

町の人口

<1月1日現在>
 人口 8,585人
 男 4,209人
 女 4,376人
 世帯数 1,871戸

発行・度会町役場 / 編集・総務課 / 印刷・文化印刷有限公司



頌 春

<本年もよろしくお願ひいたします>



私たち町職員一同は、1月1日役場庁舎前に集まり新春を祝うとともに全体の奉仕者としての心構えを新たにいたしました。
 旧年に倍して本年も暖かいご支援とご鞭達をお願いいたします。
 今年はけわしい年のように思われますが、力を合せて明るい町づくりに励みたいと思います。
 ご協力の程を……………。

'74

1 月

おもな内容

- 年頭のごあいさつ…………… (P 2)
- 12月定例町議会…………… (P 3)
- 町消防団表彰式…………… (P 4)
- 度会町の郷土史…………… (P 4)
- ペンリレー…………… (P 5)
- お知らせ版…………… (P 6)

年頭のごあいさつ



町民参加で道路・教育 福祉行政を推進

度会町長 濱岡和

明けましておめでとうござ
います。
町民の皆様にはお揃いで輝
かしい新春をお迎えになられ
たことを心からお慶び申し上
げます。

て、中東を取りまく紛争に端
を発した燃料危機、その他特
殊物資の不足偏在、または価
格変動など私達生活に危機感
をはらみつつ越年いたしまし
た。

伊勢広域農道整備事業)田口
橋(仮称)の架橋、明野高校
度会分校の独立、中学校の新
設統合、その他継続、新規の
重要課題に議会とともに生命
をかけて取組む決意でありま
す。

私も町政担当以来、七度目
の新年をむかえ過去を振り返
り今更ながら皆様の限りなき
ご協力ご支援に対し心から感
謝し厚く御礼申し上げます。

町といたしましては、この
激動する世相の中で、町民総
参加の町政をもって、住民福
祉を軸として、特に県道伊勢
南島線、同滝原伊勢線、度会
玉城線の改修と十三万三千メ
ートルに及ぶ町道の仕上げの
ほか、新規の大規模農道(南

何卒田に倍し皆々様のご理
解ご協力をいただき総意を基
盤とする町政の確立と危機突
破の完遂をお願い申し上げます。
頭のご挨拶いたします。

歳しさを加えて参りますが、
特に昨年後半から歳末にかけ

頭のご挨拶といたします。

極度な自然破壊や公害のない
現状は誠に結構なことであり

新年を迎えて



度会町議会議長 広良松

新年おめでとうございま
す。
昭和四十九甲寅新春を迎え年
頭にあたり、度会町の発展と
町民各位の多年を祈念申し上
げます。

特に前々から要望されてい
た中学校の統合について、そ
の基礎とも云うべき新設中学
校用地設定について、深い
御理解と協力をいただき尊い
土地を学校教育のため、心よ
くお譲りいただきました。
関係者各位に対し厚く御礼
申し上げます。

本年は国際的資源需給のひ
っ迫の中で、中東産油諸国の
情勢の影響を大きく受け国内
経済体質の転機と問題をひか
え、生活必需物資にも問題を
かかえて新年を迎えました。

現を期しております。そのほ
か町行政には更に一般の努力
すべき事業や問題も多くのこ
ざれています。
これらの事を強力に推進し
ていただくため、町民のみな
さんと共に全力をつくしたい
と思っております。

この厳しい内外の諸情勢を
見るとき、心を新たに新年
を寿ぐと共に、自治行政には
新しい覚悟をもって、平和で
住みよい郷土建設と豊かで安
定した町民生活を目標に一層
の研さん努力をすべき年であ
ると考えます。

郷土発展のため町民各位の
絶大なる協力で、相互理解に
よる平和な日常生活を切に希
望して新年のご挨拶といたし
ます。

町制施行から第七年目を迎
えた度会町は、町民各位の不
断の努力と一致協力により年
々成長発展いたしましたがい
極度な自然破壊や公害のない
現状は誠に結構なことであり

この寒の内に行われる風習
や行事は、いろいろあります
が、寒中水泳や寒げいこのほ
か、宗教的には寒まいりや、
寒ごりなどは、わが国独特な
もののように、外国ではあま
り見かけないようです。

町制施行から第七年目を迎
えた度会町は、町民各位の不
断の努力と一致協力により年
々成長発展いたしましたがい
極度な自然破壊や公害のない
現状は誠に結構なことであり

この寒の内に行われる風習
や行事は、いろいろあります
が、寒中水泳や寒げいこのほ
か、宗教的には寒まいりや、
寒ごりなどは、わが国独特な
もののように、外国ではあま
り見かけないようです。

季節の話題

寒のうち

一月六日は太陽の黄経が二
百八十五度に傾いて「小寒」
寒の入りです。冬至が過ぎて
十五日目がこの日に当り、こ
の日からさらに十五日目が「
大寒(二十日)」に当るわけ
です。大寒の前にして寒さは
ぐっと加わってきます。
この大寒からさらに十五日目
の節分(二月三日)までの三
十日間を「寒」といいます。
寒という字を見ただけでも鳥
肌が立つという人がいました
が、年によっては畑の作物に
影響するほど暖かい年もあっ
たように、その日が来てみな
ければ陽気のことはわかりま
せん。物事が必ずしも順序ど
おりにゆかないことを下世話
に「小寒の永大寒に解く」と
いっています。

こうした風習は、寒さに耐
えて、じっとしているだけで
は運動不足になりがちで病氣
にもかかりやすいというところ
から「寒」に立ち向かい、身
心を鍛練しようと祖先が考え
た生活の知恵と申せましよう

開催された

十二月定例町議会

全議案を原案どおり可決成立
《十二月十七日
十二月十八日》

第四回定例町議会は、去る十二月十七日と十八日の二日間にわたり開かれました。第一日は町長より提出された全議案を一括上呈し、町長

より提案説明があり、次いで議案朗読と詳細説明があり、質疑応答がなされました。第二日は、それぞれの議案が関係常任委員会に附託され、

再会された議案に各常任委員長報告があり、全議案を万場一致で可決承認されました。(可決承認された議案は別記のとおりです。)

〔条例関係〕

▼議会の議員の報酬および費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

を改正する条例
▼昭和四十八年度における期末手当の割合等の特例に関する条例

▼町長、助役および収入役の給料及び勤務時間に関する条例の一部を改正する条例

▼議会の議員その他非常勤の職員が公務災害補償に関する条例の一部を改正する条例

▼度会町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例

▼三重県営土地改良分担金徴収条例の一部を改正する条例

▼度会町職員給与条例の一部

を改正する条例

〔予算関係〕

▼昭和四十八年度度会町一般会計第三回補正予算

この補正予算においては四千六百五十六万四千円の補正がおこなわれ総額は四億七千一十一万一千円になりました。

◎ 主な補正内容は、人事院勧告に基づく給与改定にとも

なう人件費のほか老人福祉関係五百二十四万七千円、公団造林関係六百七十九万二千円、県営南伊勢広域営農団地農道整備事業関係三百三十二万二千円、山村振興町道新設改良、災害復旧事業に四百三十七万五千円などとなっております。

この補正予算において、一千八百八十三万二千円の補正がおこなわれ、総額は八千七百九十九万円となりました。この補正内容は、医療費増大にともなう支払費用が一千百十六万円と大部分を占めています。

※予算計上された公団造林とは川上簡湖地内の町有林を三重県森林開発公団と町が契約して事業を実施するものでその事業費の大部分を公団が負担し、販売時点で販売収益を町が六割、公団が四割で分配するものであり別名で分取造林ともいわれます。

事業の概要は百二十二ヘクタールのうち未植の約百

〔その他〕

▼町道路線の廃止について

▼昭和四十七年度度会町歳入歳出決算の認定について

▼三重県市町村職員恩給組合資産管理組合の解散について

▼昭和三十九年の新春を飾る五町村(二見町・御園村・小俣町・玉城町・度会町)の連合出初式を当町が当番町として実施する予定のところ「石油資源を大切に」とのことを取りやめになりました。

石油危機で中止された五町村連合出初式

昭和四十九年の新春を飾る五町村(二見町・御園村・小俣町・玉城町・度会町)の連合出初式を当町が当番町として実施する予定のところ「石油資源を大切に」とのことを取りやめになりました。

この出初式は団員の志気高揚の上からも必要であり取りやめは残念ですが、それほど石油資源が大切であることをみなさんに理解していただきたいものです。



〔予算案朗読中の議会〕

議会だより

か。一方、この季節は、寒たまご、寒ぶり、寒ぶな、寒しじみなど脂肪がのって、特においしくなるときです。



▼十二月五日 町議会全員協議会開催

▼十二月七日 町議会全員協議会開催

▼十二月十日 町議会全員協議会開催

▼十二月十一日 町議会全員協議会開催

▼十二月十七日・十八日 町議会全員協議会開催

▼十二月二十二日 町議会全員協議会開催

▼十二月二十六日 町議会全員協議会開催

▼十二月二十六日 町議会全員協議会開催

▼十二月二十六日 町議会全員協議会開催

▼十二月二十六日 町議会全員協議会開催

▼十二月二十六日 町議会全員協議会開催

度会・玉城・小俣の三町正副議長および議会事務局打合せ会(伊勢市)出席

盛大だった 町消防団の表彰式

多数表彰される

町消防団表彰式が、去る一月六日、内城田中学校グラウンドで開催されました。

この表彰式には消防団員百名が参加、濱岡町長をはじめ町議会議員、代表区長の町関係者二十名のほか、県民室中桐次長、消防協会伊勢支部の中村団長、地元駐在警察官らを招いて盛大に行なわれました。

精勳章

岡出開男(班長日向) 米田稔(同駒ヶ野) 中村昭夫(同川口) 伊藤作蔵(同栗原)

永年勤続表彰

服部幸朗(班長火打石) 森田勝美(同和井野) 高橋幸雄(同市場) 奥田久昭(団員柳) 田畑定行(同和井野)

山本正武(班長川上) 平生安生(団員南中村) 田畑政治(同和井野) 山本一弘(同南中村) 田畑貞夫(同和井野) 岡出耕一(同日向) 中田政行(同市場) 山本角夫(同日向) 西村安司(元副分団長大野木)

【三重県消防協会伊勢支部長表彰】

神森元男(班長脇出) 岡谷昌行(同五ヶ町) 橋本金代(団員日向) 西野義夫(同小萩)

【優長表彰】

服部幸朗(班長火打石) 山本正武(同川上) 中田政行(団員市場) 森田勝美(班長和井野) 平生安生(団員南中村) 山本一弘(同南中村) 田畑政治(同和井野) 田畑貞夫(同和井野) 田畑定行(同和井野) 奥田久昭(同柳) 岡出耕一(同日向)

【自治体消防二十五周年記念 全国消防大会委員長表彰】

北村重夫(団長長原) 北村重夫(団長長原) 河村周二郎(副団長茶屋広) 山下定一(分団長南中村) 鈴木逸男(同駒ヶ野) 羽根来(同立花) 中山繁(同葛原) 八木弘幸(副分団長中之郷) 長谷川元之(同市場) 中野光雄(班長南中村) 米田稔(同駒ヶ野) 中村昭夫(同川口) 伊藤作蔵(同栗原) 岡出開男(同日向) 岡谷昌行(同五ヶ町) 山下麻男(団員南中村) 長谷川長生(同南中村)

【三重県消防協会長表彰】

三重県消防協会長表彰

三重県消防協会長表彰

三重県消防協会長表彰

山本角夫(同日向)

【町長表彰】

羽根来(分団長立花) 服部才剛(団員火打石)

【優良表彰】

中西善行(班長平生) 森本勝(同茶屋広) 中村吉久(同上久具) 早川昭弘(同立岡) 福井孝則(同大野木)

【優良表彰】

岡村勝好(団員棚橋) 中村仁(同立花) 喜多隆夫(同田口) 森本勝春(同長原) 北村吉美(同長原) 油家秋夫(同長原) 西ヶ広猛(同注連指) 入山清(同棚橋) 中井誠治(同棚橋) 田畑幸男(同柳) 森井富男(同長原) 西井紀夫(同茶屋広)

【優良表彰】

【優良表彰】

【優良表彰】

【優良表彰】

【優良表彰】

【優良表彰】

【優良表彰】

【優良表彰】

【優良表彰】



〈中世史〉

度会町の地は神領であり、中世以降も守護不入の地として、戦国の世にも平和な日々が続いていたのですが、仁木義長の侵入は様子を一変させた、彼は勝手に自分の領地にして神官に対する年貢を己に出させた。たまりかねた神官達は、尊氏に神領を旧に復する運動を行ったのですが、彼は少しもきかず、逆に己を訴訟したことに腹を立てて、五十鈴川をせいで魚をとったり神路山に鷹を放って鳥をとらえたのです。

北畠氏は顕雅の代になって正式に伊勢国司となり、美杉村の多氣に居城を築いて、志摩や熊野地方の豪族を略結婚により手に納めた。

私は、一昨年北畠神神に参拝し、宮司であり美杉村教育長をしていられる宮崎氏に聞いた、当時の話をきかせていただきました。その時、城下は人口一万七千を数え、とても山の中とは思えないにぎやかさだったとのことでした。北畠氏の統治も二百三十年続くと、織田信長が伊勢に侵入をはじめようになると、彼は今川義元を倒し、美濃の斎藤氏

度会町の郷土史について <その4>

お話し 立花 羽根文夫さん

を滅ぼし、勢いによって永録十年(一五六七年)楠城を占領、十一年には高岡城と亀山城を降し、十二年には阿坂城を占領したものです。もちろん北畠氏も織田軍侵入を予想はしていたが、北勢、中勢で戦うのは不利だと思ひ、松阪市外の河内城に防衛線を敷いたのでした。この城の政防戦は、永禄十二年八月下旬より十月下旬におよび約五十日間

として和義を提案した。城中は和戦二派に分かれたが、やがて和平派が長い戦に城外を通ずるもの等と共に勝って和義は成立した。具房の父具教は隠居して、三瀬谷の館に居たが、大変立腹して反撃の機会をうかがっていた。北畠三大将の一人、田丸忠弘は田丸の居城が兵火にかかるとのおそれ岩出城に移る。忠弘の父は一之瀬城に提って三瀬谷と連絡をとりつつ反撃せんとした。天正三年北畠信雄は大河内城から田丸に城を移し、大改築をして現在の姿に堀を三重にした。天正四年十一月、彼は義父の具房一族を殺し、さらに兵を出して三瀬谷の館に具教を打った。不意をつかれた具教は子どもの守をしていたという。敵は火をつけて館を焼いた。

続いた。破竹の進撃を続ける織田軍も北畠の当主具房とその父具教の勇敢な抵抗には損害を多く出し、長期戦の様子すら見せはじめた。織田軍はここで戦が長期になっては中央制覇はできないようになると思ひ、木下藤吉郎は信長の二男茶々丸(織田信雄)を元服させ、北畠三郎具豊と名のり、之を国司北畠具房の養子



なお表彰式終了後、初訓練も行なわれました。



パンフレット 44

「お前まだ百姓やっているのか」、この一言は晴天の霹靂（へきれき）の如くに、私の耳をつんざき脳天を打割った。

もう十何年も昔のことになるが、それまで我々の農民の味方、働く者の味方として全幅の信頼の上に支持して来た人の言葉であった。

「池田内閣の、所得倍増論は、百姓六割増首（かくしゅ）論であり、国民年金は、零細農民の金を集めて、大企業に、融資する政策である。」という意味の演説に「一々なる程と、相槌を打って聞いていた、のちで言葉であった。」

太平洋戦末期の七ヶ月にわたる学徒動員による工場生活、さらに終戦迄の五ヶ月間の高等商船学校的生活は、B29による食糧庫の爆撃なども手伝って食糧不足を通り越して、まさに飢餓

線上をさ迷い歩く経験であった。

終戦後この経験が私に先祖伝来の農業への道を歩かせたのかも知れないが、しかし、自分の職業を天職と信じ如何に現状が苦しくとも、また如何にはた目には馬鹿げた事であつても一心に努力し、工夫してやっていると對して、「お前まだ……やっているとのか。」などと言うだけの権利を持つている人が、この世にあつてよいものだろうか。

この言葉は更に固く私の心に農業への愛着を呼び起すとともに何如なる政治も我々農民の心の底からの味方でないことを知らしめたと言つてよいだろう。

もう一昨年のことになるが田中首相が中国訪問の時、万里の長城を視察されているものをテレビの中継で見たことを思い出す。

この世界三大馬鹿工事の一つと言われている万里の長城なるもの、今から二千三百年程も前に中国最初の統一国家を築いた秦の始皇帝が外敵匈奴



奴の侵略を防ぐために、東は山海関から西は西蔵に至る、国境線を山と言わず谷と言わず延々と煉瓦と土で築き上げた城壁であつた。

この莫大な工事の費用のために今日でいう、いわゆるインフレーションが物凄く進み匈奴（きょうど）の侵略はある程度食い止められたが始皇帝の死後三千にして秦の国は崩壊したという。

日本列島改造の掛声のもと

お前まだ百姓やっているのか

大野木 西村 寿郎

(農業 四十五才)

の結果を思い出すのは、純粋な戦争協力の青春時代を送つて来た我々世代の思い過ごしだろうか。

二宮尊徳によつて代表される儉約こそは、資源もなく、広大な農地を作ることに出来ない国土に住む日本民族の長い間かかって得た生活の知恵であつたはずである。

それを消費は美德などと、持っている国、アメリカの真似をして、「お前まだ百姓や

ある経営を造ると言うのは、我国の農政経済学の神様、東畑精一博士の持論であつた。しかし、サラリーマンの所得の上につれて、都市近郊の農地は宅地として、うなぎ上りに暴騰をはじめ、列島改造が叫ばれてからは、全国的な土地買占めをひき起し、ついに、東畑博士をして、土地の値上りは私の計算に入っていない、もはや、私が日本農業を論ずる資格なしと嘆か

っているからそんなケチな生活しか出来ないんだ。」と言わんばかりの政策をやっているから、油上の樓閣の如き日本経済は、アラブの石油制限によつて、たちまち買いだめ売惜しみのインフレーションを倍加して、国民の心を不安のドン底に落としたのではなからうか。

農民の数を減らすと同事に、近頃政治家、学者の間で日本農業を見直そうという声が上がって来た。

この世界的な食糧不足を背景に、近頃政治家、学者の間で日本農業を見直そうという声が上がって来た。

次号は、西村さんのご指名により、鈴木治さん（駒ヶ野）にお願いする予定です。



お知らせ版

保健コーナー

乳幼児健康診断

〔一月二十四日〕

●対象地区 中川地区・内城田地区(但し、棚橋・大野木・葛原は除く)

健康診断

昭和四十八年度における、

●対象地区 一之瀬・小川郷 棚橋・大野木・葛原
第二回地域保健対策による健康診断を次により行ないますから前回受診された方はもとより、一度も受診したことのない方は必ず検診をうけましょう。
時間はいづれも午後三時から午後八時までです。
〔一月二十三日〕
田口の方 田口青年クラブ
〔一月三十日〕
長原の方 長原老人会館
〔二月六日〕
立花の方 立花青年クラブ

消費生活の相談を受けよう

〔くらしのちえ号〕 来町

二月十八日役場へとうぞ

明るく豊かな消費生活を、だれもが願っています。最近の激動する社会情勢は、私たち消費者に幾多の問題を投げかけています。

このような時こそ消費者として新しい時代の知性と社会の変動に対応する能力が必要お越しを願っています。

中小企業に定年延長奨励金が支給されます

新しい高齢者の雇用促進制度

人手不足が叫ばれている中でも、高齢者の再就職はまだまだ困難な状況にあります。

このため、この第七十一国会において雇用対策法(昭和四十一年法律第百三十二号)の一部改正が行われ、定年の引上げなど新しい高齢者の雇用対策がスタートしました。

これは、今後五年間位に六十歳定年が一般化することを目標として、国は事業主や関係者に対して定年延長奨励金や再就職援助措置を行なおう

とするものです。

くわしくは公共職業安定所(伊勢八〇二一五)事業所担当課へお尋ね下さい。

●定年延長奨励金

支給対象
労働協約または就業規則で定めている定年年令を昭和四十八年度(四月一日)以降において五十六歳以上に引上げた中小企業の事業主です。

●支給額

定年年令引上げで雇用が延長された労働者(五十五歳以上六十五歳未満であつ

て失業保険の被保険者であった期間が通産して二十年以上の者に限る。)の数に一人当たり年額二万五千円を乗じて得た額

●支給期間と申請手続き

昭和四十八年度から五年以内で、毎年一月末日までに該当の中小企業の事業主は、公共職業安定所長に労働協約または就業規則の写(定年引上げ実施前および実施後のもの)を添えて所定の書類を提出します。

●定年退職前の職業講習の実施

国が四十八年度から設けた新しい制度で定年退職前一年―二年の方で、主に通信教育で再就職に役立つ知識・技能(簿記・不動産取引・経営管理・電気技術など二十コースあり)を身につけるもので受講料は国(労働省)が負担するほか、本人には受講給付金が月額三千七百二十五円(通信制)支給される特典があります。該当する希望者は事業主を通じて伊勢公共職業安定所へお申込みください。

通行止のお知らせ

町道矢村下久具線の改良工事施行にともない次のとおり通行止めをいたします。

一、場所 矢村―山川間

一、期間 一月十日から三月二十日まで

一、通行制限 全面通行止くわしくは町土木課でお聞きください。



戸籍の窓

へ十二月中旬に届出のもの

〔おめでた〕

〔おくやみ〕

氏名	父の名	続柄	字	氏名	年	年齢	字
御村幸代	幸夫	長女	南中村	高橋	せい	85	市場
北川哲也	正昭	長男	田口	藤田	ハツエ	75	上久具
大西 誠	一義	長男	下久具	油家	トラエ	47	長原
作野敏昭	元幸	二男	小萩	大北	つじゑ	80	棚橋
福井清伸	章	二男	大野木	西村	要蔵	75	大野木
山中和美	清和	二女	坂井	松井	きみ	66	鮎川
山本和典	角夫	二男	日向	野呂	和代	0	南中村
服部利文	利治	長男	火打石	奥村	きみ子	60	坂井
中村貴美	宏	二女	上久具	中谷	康平	74	田口
中村恵美	宏	三女	上久具	西岡	熊雄	67	和井野
				早川	繁太郎	83	立岡